

- 1 単元名 分かりやすい発表者になって、中学校へのグッド・スタートをきろう（教材「深めよう、言葉の世界」）
 2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として「中学校へのグッド・スタートをきるための発表会を行う」ことを位置づけた。ここでは、適切な資料の選択や作成と、それらを活用した話し方が求められる。また、よりよい発表にするためには、助言し合って練習することが必要である。したがって、本単元でねらう「目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと」（A 話す・聞くイ）「話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。」（A 話す・聞くエ）を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

3 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、1学期に学習した「学校の良さを宣伝しよう」で、校外の方に向けて学校の良さを宣伝するという言語活動を行った。この学習を通して、宣伝したいことが相手の印象に残るように、学校の短所を長所に言い換えたり、キャッチフレーズを考えたりして話の構成を工夫する力が身に付いた。しかし、発表の場面では、聞き手の反応を確かめながら話すことが十分にできていなかった。また、全国学力・学習状況調査のうち、「話すこと・聞くこと」の領域では、「話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言する」ことに本学年の児童も課題があることが明らかになった。このことから、本学級の児童は、効果的に話を聞かせたり、話し手の意図を汲み取って助言したりする力が十分に身に付いていない。本単元を通して、「分かりやすく発表する」とはどのような話し方なのかを資料を使って具体的に示し、効果的に話す力を付けるとともに、発表内容の意図をくみ取って助言する学習を行う必要がある。

事前調査 平成25年度全国学力・学習状況調査より

(平成*年*月*日 *人)

項目	正答	誤答
相手の立場や状況を感じ取って聞くことができる。 (平成25年度B設問一 話し手の意図を捉えながら助言をする一レクリエーション活動)	*人 (*%)	*人 (*%)
話し手の意図を捉えながら聞き、適切に助言することができる。 (平成25年度B設問二 話し手の意図を捉えながら助言をする一レクリエーション活動)	*人 (*%)	*人 (*%)
話し手の意図を捉えながら聞き、効果的に助言することができる。 (平成25年度B設問三 話し手の意図を捉えながら助言をする一レクリエーション活動)	*人 (*%)	*人 (*%)

(2) 教材観

本教材は、資料を提示しながら発表するという言語活動を通して、資料を効果的に使って、聞き手の反応を確かめながら分かりやすく話す能力を付けることに適した内容である。児童が必要感をもって達成できるように、題材として中学生を対象としたアンケート結果を取り上げる。6年生は、中学校進学に当たり多くの不安を抱えている。中学生の現状を把握することで、残りの小学校生活を見つめるきっかけになると考える。また、本単元では「資料」を使って発表を行う。「資料」には、フリップやハンドアウト、イラスト、ポスターなど多様なものが含まれる。児童が日常生活の中で触れる情報の多くは、何らかの資料を活用している。これからの情報化社会に生きる児童が、多様な資料から伝えたいことに適した資料を選択し発表する能力を付けることができる教材であると考えられる。

(3) 指導観

指導に当たっては、まず、第一次に、教師が発表のモデルを児童に示して、分かりやすく伝えるには、「話の構成の工夫」と「聞き手の反応を確かめながら話す」ことが重要だということを実感できるようにする。事前に中学校に依頼していた学校生活についてのアンケート結果をもとに、「保護者に向けて」「中学生の学校生活を発表する」という相手意識、目的意識を明確にして児童の意欲を高めながら、学習に取り組めるような計画を立てる。また、発表モデルと教科書教材「深めよう、言葉の世界」から、発表内容に適した資料を選ぶ視点や聞き手の反応を確かめながら分かりやすく話す発表の仕方の工夫等について考えていくことを確認する。

第二次では、第一次を踏まえ、同じテーマのグループ活動も取り入れ課題を解決していく。アンケート結果から中学校の現状を分析、把握し、発表会で話すことを中心に話し合う。そこから「分かりやすい発表者」になるために、発表したい内容に合った資料を選択したり、発表メモを作成したりする。保護者へ向けた発表会を学習のゴールとするので、アンケートをまとめて発表するだけでなく、各自が、中学校入学へ向けた決意なども話せるようにする。その後、作成した発表メモや資料を使いながらグループ内で発表の練習をする。練習を行う際には、「聞き手の反応を確かめながら話しているか」、「発表したい内容に適した資料を選定しているか」、「資料の示し方やタイミングを工夫しているか」などの評価の観点を明確にすることにより、話し手の意図を汲み取った上での的確なアドバイスを行えるようにする。本番の保護者を対象とした発表会に自信をもって臨めるように、学習を充実させたい。

第三次では、学習公開日に保護者に対して発表を行う。発表会後には、学習のまとめとして、自分の発表したい内容がしっかりと保護者に伝わり思いを共有することができたという満足感を味わうとともに、発表したい事柄が明確に伝わるように「話の構成を工夫する」力が付いたことを実感させ、今後も身に付けた力を生かしていこうとする意欲につなげたい。

4 単元の目標

- 発表したい事柄に適した資料がどのようなものか考えながら作成したり、資料の提示の仕方を工夫したりすることで発表がより効果的になることを感じながら話したり、振り返ったりしようとする。(国語への関心・意欲・態度)
- 発表したい事柄が明確に伝わるように、アンケート結果から得た情報を関連付けながら、話の構成を工夫したり、資料の提示の仕方を工夫したりすることができる。(話すこと・聞くことイ)
- 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして助言することができる。(話すこと・聞くことエ)
- 話し言葉と書き言葉とでは、表現上の特質などに違いがあることに気付き、その特質に注意して話すことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
・資料の提示の仕方を工夫することで、発表がより効果的なものとなることを感じながら話したり、話し方を振り返ったりしようとしている。	・発表したい事柄が明確に伝わるように、資料の提示の仕方を工夫したり、話の構成を工夫したりして発表している。 ・話し手の意図がより伝わるためには、どこをどのように修正すればよいかを考えて助言している。	・話し言葉と書き言葉とでは、表現上の違いがあることに気付き、その特質に注意して話したり聞いたりしている。

6 指導計画 (9時間扱い・・・本時第6時)

次	時	主な学習活動・内容	主な評価
一	1	・教師自作の発表モデルから分かりやすい発表に必要な要素を抽出し、分かりやすい発表者になるための学習計画を立てる。	・分かりやすい発表を行うためには、何が必要なのか考えながら発表モデルを視聴している。(関心・意欲・態度)
	2	・発表モデルと教材から、分かりやすく話すにはどうすればよいか、発表に適した資料にはどのような特徴があるのかなどを考える。	・発表に適した資料にはどのような特徴があるか考え、発言したりワークシートに記述したりしている。(話す・聞く能力)
二	1	・アンケート結果から発表したいテーマが同じ人同士でグループを作り、情報を整理して発表会で話すことを中心に話し合い、それに適した資料を選択したり、発表メモを作成したりする。	・資料のもつ特徴を生かして、相手や目的、内容に応じた資料を選びまとめている。(話す・聞く能力)
	2	・話し言葉と書き言葉の違いについて学習する。 ・聞き手を意識して、発表に使う資料や発表メモを作成する。	・話し言葉と書き言葉とでは、表現上の違いがあることに気付き、その特質に注意して話そうとしている。(言語についての知識・理解・技能)
	3	・聞き手を意識して、発表に使う資料や発表メモを作成する。	・資料の持つ特徴を生かして、相手や目的、内容に応じた資料を作成している。(話す・聞く能力)
	4	・作成した発表メモと資料を使いながらグループ内で相互に発表を見せ合い、アドバイスをし合う。 ・助言をもとに、発表の修正と練習を行う。	・より良い発表をするためには、具体的にどうすればよいかを考えて助言したり、提案したりしている。(話す・聞く能力) ・受けた助言や提案を基に、メモや発表の仕方を改善している。(話す・聞く能力)
	5	・異なるテーマを選んだ者同士でグループを再編し、発表の内容についてアドバイスをしたり提案をしたりして、本番に向けてのリハーサルを行う。	・前時に受けた助言や提案を基に、分かりやすい発表をしている。(話す・聞く能力)
三	1	・保護者に向けて、「中学校へのグッド・スタートをきろう発表会」を開き、発表を行う。	・資料の提示の仕方や話の構成を工夫し、目配りや言葉遣いを意識しながら分かりやすい発表を行っている。(話す・聞く能力)

2	・前時で発表会を撮影したビデオを視聴し、分かりやすい発表には何が必要なのか振り返り、6年2組の発表者のルールとしてまとめる。	・単元を通して身に付いた「話すこと・聞くこと」に関する力を意識しながら、単元全体を振り返ろうとしている。 (関心・意欲・態度)
---	--	--

7 本時の指導

(1) 目標

・発表をより良いものにするため効果的な発表の仕方について、アドバイスしたり提案をしたりすることを通して、発表メモや発表の仕方を改善することができる。

(2) 準備・資料

・陸上競技用のタイマー ・ビデオカメラ ・鏡 ・発表メモ ・掲示資料「お話し名人になるには…」

(3) 展開

☆言語活動を充実させるための手立て

学習活動・内容	指導・支援の手立てと評価 (〇・・・評価)
<p>1 本時の学習課題を確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>分かりやすい発表者になるために、効果的な発表の仕方を練習しよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時は、発表会へ向けての1回目のリハーサルであることを確認し、一人ずつの発表がより分かりやすいものになるように、アドバイスをしたり、発表の仕方を修正したりする時間であることを伝え、学習の目的を明確にする。
<p>2 本時の流れと聞き手に分かりやすく伝えるために気を付けることを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〇分かりやすい発表者のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手を意識した話し方 ・資料の示し方 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を振り返り、「聞き手を意識した話し方」と「資料の示し方」の2点に絞って、気を付けることを確認する。 ☆発表者と参観者で双方向のやりとりができるように、掲示資料「話し方名人になるには…」でアドバイスを行う際には、「私だったらこうする。」といった代案を言うことを確認する。また、アドバイスや提案を受けた発表者は、それに対して自分の考えを必ず述べることを確認する。
<p>3 グループで発表練習をする。</p> <p>(1) 1人ずつ発表する。</p> <p>(2) 分かりやすい発表者のポイントに従いアドバイスをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を示すタイミングが遅かったので早くした方がよい。 ・説明していることが、資料のどこに書かれているのか指をさして示すとよいね。 ・資料からどんなことが分かるのかよく理解してもらうために、少し時間を取ってもいいと思う。 ・メモばかり見ずに、相手を見て話せると良かったと思う。その方が、反応を確かめながら、繰り返し言ったり、間を取って強調して言ったりすれば、相手は分かりやすいと思う。 ・グラフの一部を紙で隠しておいたのは、おもしろい工夫だと思う。 <p>(3) アドバイスをもとに練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表の仕方を見て、良いと思ったことをメモに書かせ、より良い発表ができるように何回も練習するように助言する。 〇観点に従って、友達の発表を聞き、具体的なアドバイスや提案を行なっている。(行動観察) ・机間指導では、「聞き手を意識した話し方」や「資料の示し方」について具体的にアドバイスしている児童を認めるとともに、他の児童やグループにも紹介し、観点に沿ってアドバイスすることができるように支援する。 ・1回目の練習が終わりそれぞれの課題が見えたグループには、ビデオカメラや鏡を使って自分を客観的に見て練習できるように支援する。 〇アドバイスや提案をもとに、効果的な発表の仕方を工夫したり、練習をしたりしている。(行動観察)
<p>4 本時の振り返りをし、次時の学習について見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を見せるタイミングについてアドバイスをもらいました。資料を出すタイミングを説明にあわせて少し早くしたら分かりやすくなったと言われました。 ・聞き手の反応を確かめながら話した方がよいと言われたので、資料を指で示して少し間を取りながら説明する練習をしました。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の発表会で確認できるように、本時の学びを発表メモに書くよう助言する。 ・机間指導を行い、「分かりやすい発表者」のポイントを押さえて発表することができたという振り返りや次時にはできるようにしたいポイントを書いている児童を意図的に指名して発表させ、クラス全体で学びを共有する。 ・次時は、「異なるテーマを選んだ者同士でグループを再編し内容が分かりやすいかアドバイスし合おう。」を行うことを確認する。